

第2回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：令和3年8月31日（火）午前10時～11時40分
- 2 場所：おだわら市民交流センターUMECO 会議室5・6
- 3 出席者：前田委員長、林田副委員長、渡邊委員、林委員、山崎委員、吉澤委員、島田委員、山下委員
関係者：UMECO指定管理者 露木センター長、椎野副センター長、桂氏（議題（1）のみ）
事務局：岩田課長、森係長、岡崎主査
- 4 資料：
 - ・次第
 - ・資料1 令和4年度実施分小田原市市民活動応援補助金応募の手引き（案）
 - ・資料2-1 提案型協働事業申請一覧（令和4年度実施分）
 - ・資料2-2 提案型協働事業審査実施要領（案）
 - ・資料2-3 提案型協働事業審査採点表（案）
 - ・資料3 第10期諮問事項「市民活動団体の多様な主体との連携の促進」の検討の進め方（案）

5 会議内容

■ 開会

■ 議題（1）市民活動応援補助金交付事業について

委員長：それでは、議題（1）市民活動応援補助金交付事業について、に入る。本委員会は、議事に関係のある方に出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。本議題に関し、おだわら市民交流センターの指定管理者にお越しいただいている。それでは、ご説明をお願いしたい。

（事務局及び指定管理者 資料1に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：UMECO市民活動応援補助金（以下、UMECO補助金）は、小田原市市民活動応援補助金（以下、市補助金）の審査後に改めて審査を行っているのか。市補助金の不通過団体は、UMECO補助金の交付希望がなかったのか。

指定管理者：市補助金に係る市民活動推進委員会の審査に同席し、その結果を参考にUMECOにおいて最終決定している。不通過団体からも交付希望はあったが、UMECO補助金は市予算の都合により市補助金の交付に至らなかった事業を対象にしており、これまで要件を満たす事業はなかった。

委員長：市補助金の審査では、申請事業を序列化し、一定の水準を満たす事業を、予算の範囲内で通過事業としている。UMECO補助金についても、一定の水準を満たす事業である必要がある、ということである。

それでは、議題（1）については終了する。指定管理者はこれで退席となる。本日は、大変お忙しいところ、時間をさいいただき感謝する。

■ 議題（2）提案型協働事業の審査について

委員長：次に、議題（2）提案型協働事業の審査について、事務局からご説明をお願いしたい。
（事務局 資料2-1～2-3に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：部会員以外の委員にも、事業の内容等を共有した方が良く考える。

事務局：申請書をお配りすることは可能である。

委員：他の委員からも、それぞれの視点で事前質問いただくことは可能か。

事務局：事前質問については審査に関わることから、部会委員のみご提出いただく想定である。

委員長：それでは、事業提案書等の審査書類を、全委員に配布することとする。

■ 議題（3）諮問事項「市民活動団体の多様な主体との連携の促進について」

委員長：次に、議題（3）諮問事項「市民活動団体の多様な主体との連携の促進について」、事務

局からご説明をお願いしたい。

(事務局 資料3に基づいて説明)

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

市民活動への参加の促進を目指す多様な層の市民について、諮問では「若者、女性など」としている。若者についてはそのとおりであるが、市民活動の領域ではむしろ女性が活発に活動している印象である。男性の参加を促進する方策も必要かもしれない。

委員：そのとおりと思う。また、男女というよりは勤労者層の参加を促進できると良い。

委員長：働きながら、時間の許す範囲内で市民活動に関われるような、参加しやすい仕組みがあると良いだろう。

委員：企業とのネットワーク事業について、各市民活動団体の貴重な発表の場として活用されていると思われるが、発表団体の中には介護施設や高齢者施設などでニーズのある活動が含まれている可能性がある。そういった施設に、イベントの様子を見に来ていただくなど、実際の活動内容を周知することができれば、さらに連携が広がるのではないかと。

委員：小田原市ではODAWARAコンサートバンクという制度があり、福祉施設等からの依頼に応じ、演奏家を紹介している。また、自分時間手帖には各団体の活動内容等を掲載している。そういった一覧表はあるものの、ネットワークとして活用されているとは言い難く、工夫の余地があると思う。

事務局：令和2年度で終了した昼のミニコンサートでは、演奏者と福祉施設のつながりが生じたようなこともあった。UMECOにもご意見を伝えたい。

なお、UMECOからは、福祉施設に情報提供し、当該イベントの開催時に見学していただいた事例もあると伺っている。

委員長：Hello!UMECOが参考になると思われるが、福祉施設へは配布しているのか。

事務局：自治会長や地区公民館には配布しているが、福祉施設へは配布していないので、今後UMECOと相談してまいりたい。

委員長：協働事業のガイドラインは作成から8年以上が経過しているが、内容については、協働が幅広いものであることを指摘した上で、団体と行政の協働に関することが中心となっている。今期の前半では様々な主体に意見を伺いながらガイドラインを更新するということであるが、具体的にどのような主体を選定すべきか等、ご意見はあるか。

可能であれば、まずは次回、現場をよく知っているUMECOの方から、行政以外に協働を広げることについての課題等についてお話しいただくべきだろう。

また、本委員会は様々な立場の委員が集まっていることから、それぞれの委員から協働についての提言等を発表していただいても良いかもしれない。

市内で、社会貢献活動に活発に取り組んでいる事業者はどのようなところか。

委員：おだわらSDGsパートナーとして登録している事業者が該当するのではないかと。それぞれ社内的な取組のみのところもあれば、社外的な取組を行っているところもあると思われるので、内容を見て選定する必要がある。市内事業者が中心であるので、地域の課題解決という視点からも相応しいと思う。

事務局：おだわらイノベーションラボでは、おだわらSDGsパートナー登録団体等との連携を促進しているので、そうしたところに働きかけることも考えられる。

委員長：かわさき市民活動センターでは、事業者のCSRや市民活動との協働の取組を取材し、情報紙上でコラムとして掲載している。直近ではキャノン株式会社を取り上げられており、小田原市においても大規模な工場を有する事業者であれば同様の取組を行っている可能性があるが、該当しそうなところはあるか。

委員：富士フイルム株式会社、花王株式会社、ライオン株式会社、第一三共ケミカルファーマ株式会社などは条件に該当すると思われる。

委員：今挙げられたところは環境活動に熱心に取り組まれている印象はあるが、全国規模の事業者であるので、活動の規模も非常に大きい。地域における活動に焦点を当てるのであれば、小田原ガス株式会社や、鈴廣かまぼこ株式会社なども挙げられる。ただ、いずれも環境活動という切り口からSDGsに取り組んでいる部分があるので、ただちに市民活動と関連付けるのは難しいかもしれない。

- 委員：有限会社川田製作所は、障がい者が耕作放棄地の活用に携わるような農福連携事業を行っているが、中小企業庁の事業再構築補助金の採択案件となっており、大変先進的である。
- 委員長：その有限会社川田製作所について、障がい者を支援する市民活動団体と連携しているかを確認したいところである。
- 委員：調べることは可能と思われる。
- 委員長：こうした事例は他にもあるかもしれないので、検討にあたり把握できると良い。
- 委員：地域の事業者が会員となっている商工会議所の協力が得られれば、把握が可能かもしれない。事業者と市民活動団体が連携している事例等について情報提供いただけるかどうか、相談してみたい。
- 委員長：よろしくお願ひしたい。
次回はUMECOの方の話を伺いたいので、次々回以降で事業者との連携に係る話を伺う機会を設定したい。
UMECOの方からは、例えば連携にあたっての課題を列挙するなど、どのような形でも結構であるので、事務局において調整をお願いする。
- 委員：子どもへの社会貢献教育という視点もあると思われる。いずれかのタイミングで関係者から話を伺い、そういった研究も行えると、より広がるのではないか。
- 委員長：UMECOの企業とのネットワーク事業では、旭丘高等学校もイベントに参加しているとのことである。この学校は、社会貢献教育に熱心であるのか。
- 委員：河川清掃や北條五代祭り前の市街地清掃等に積極的に参加している印象がある。
- 委員：そうしたボランティアの実践も重要であるし、子ども自身が関わり方をモデル事業やワークショップで考えていただけると、若者として市民活動に関わっていただけると思われる。
- 委員長：少し先になるとは思いますが、学校関係からも話を伺う機会があると良いかもしれない。
- 委員：それぞれの所管としては、どのようになっているのか。部局間の調整が必要なのか。
- 事務局：市立小中学校関係は教育委員会、市民活動の全体的なことは市民部で、他には生涯学習関係は文化部などであり、調整は必要と思われる。
市民活動と地域活動の区分は実際には明確ではないが、例えば小学校の総合学習において、地域の方が稲作の体験を行ったり、梨の栽培を指導したりすることを通じ、子ども達の地域への愛着を高めるといことは行われている。純粋な市民活動という意味だと、現在はそれほど学校現場に入れていないと思われる。
- 委員：そうした実習だけでなく、地域にはどのような課題があり、どのような主体がいて、どのように解決するのか、といったことを考える機会を持たせられると、子ども達が気付くきっかけになるだろう。
- 委員：先進事例の研究というのも有効と思われる。
- 委員：他市においても、事業者と市民活動団体の協働促進に取り組んでいるので、ホームページ等で情報収集すると良いのではないか。これまで意識していなかった小田原市内の事例でも、見方を変えると協働であることに気づくこともある。
また、学校との協働に関連し、平塚市内の高校では、高校生が社会貢献活動を行うインターアクト部という部活があり、部と市民活動団体が連携して子どもの学習支援を行っている事例がある。小田原市の一部の高校にもインターアクト部があると聞いているので、そういうところから調べていけば、実際の学校との連携等が分かるかもしれないし、そういったあまり周知されていない活動に光を当てることも重要である。
- 委員長：市内では、市民活動団体ではなく株式会社等がコミュニティビジネスを行っている事例はあるか。地場産のものを積極的に使い収益を上げるとともに地域貢献を行う、例えば地元の木材を活用している事業者等である。
- 委員：地元の木材ということだと、H a R u N e小田原やラスカ小田原にアンテナショップがあり、市内事業者もある。
- 委員：例えば、市内事業者である株式会社ラ・ルースは、小田原を中心とした間伐材を用いた木製品を製造しており、都内等でも販売している。

- 委員：木材ではないが、株式会社小田原柑橘倶楽部も該当するだろう。
- 委員：みかんやレモンを活用した地域活性化を推進しているということである。
- 委員長：そうしたところとNPO法人が連携しているという事例もあるかもしれない。
- 委員：コミュニティビジネスは、同じ事業でも実施主体は様々である。主体が事業者でも、また団体と事業者がタッグを組んでいなくても、地域貢献活動であれば市民活動に含めるなど、定義を広げて捉えられればと思う。
- 委員長：企業の地域貢献が注目され始めてからかなりの時間が経つ。収益が目的であってもそれを地域に還元したり、地域の資源を活用したりと、地域貢献の範囲は大変幅広いので、今期の検討においても「ここは市民活動団体、ここは事業者」等と枠に当てはめすぎないように、今までの発想を変えていくことも重要である。段階的に範囲を広げていくこともあるだろう。
- それでは、今回様々な意見をいただいたので、今後の検討において順序だてて各主体に話を伺う等、進めることとする。
- 続いて、市民活動応援補助金及び提案型協働事業の見直しに係る意見等はあるか。
- 委員：平塚市では、伴走支援というものがある。トヨタ財団や損保等でも基盤整備として実施しており、資金的な支援だけではなく、運営していくためのノウハウに係るアドバイス等も含めて、市民活動団体に寄り添って支援するものである。一歩進んだ支援として、検討できると良い。
- 委員長：藤沢市でも実施していると聞いている。
- 委員：そういった事例では、伴走するのは中間支援組織となるのか。また、具体的にはどういった支援内容があるのか。
- 委員：必ずしもそうではなく、行政であったり、市民活動団体の運営に専門的なノウハウを持つところ、例えばNPO法人CRファクトリー等も実施していると思う。残念ながら、伴走支援ができるほど力のある中間支援組織は多くないのではないかと。
- 内容としては、支援する側の有するつながりや情報により、団体が必要とするノウハウを有する人を見つけてアドバイスを求める、という形になると思う。
- 委員：プロボノバンクのようなものに登録してもらい、そこからマッチングするというのもできると良いかもしれない。
- 事務局：本市では、UMECOにおいて市民活動応援補助金に係る相談対応等を行っており、交付後も視察やアドバイスを行うなど、伴走支援に取り組んでいる。
- ただいま伺った事例についても研究してまいりたい。
- 委員長：若年層に焦点を当てたプログラムをつくるという方法もあるし、前期報告書にもあった「連携・協働コース」も検討する必要がある。
- 次回会議では、補助金や提案型協働事業に係る他自治体の事例を共有し、本市の状況や予算規模に合った制度検討の足掛かりとしたい。

■ その他

委員長：その他について、事務局からお願いする。

(事務局 今後の会議日程の調整)

※調整の結果、今後の会議日程及び場所は次のとおりとなった。

第3回委員会・・・令和3年10月14日(木)午後 UMECOまたは市役所

第6回委員会・・・令和4年3月13日(日)終日 UMECO

■ 閉会